

令和5年度 高知県立盲学校 第2回学校運営協議会記録

【委員】※参加者は数字に○印 全委員出席

番号	氏名	所属等	区分
①	原田 浩平	小高坂各種団体連携協議会会長	地域住民
②	内川 文博	越前町1丁目北町内会会長	地域住民
③	井上 牧	高知県立盲学校PTA会長（高等部）	保護者
④	高橋 鈴香	高知県立盲学校PTA役員（高等部）	保護者
⑤	高田 麻美	高知県立盲学校PTA副会長（小学部）	保護者
⑥	上村 雅志	社会福祉法人 小高坂更生センター理事長	学校の運営に 資する者
⑦	金平 景介	高知県身体障害者連合会 視覚障害者生活訓練指導員	学校の運営に 資する者
⑧	西岡 和美	オーテピア高知 声と点字の図書館館長	学校の運営に 資する者
⑨	伊藤 正孝	高知県進学協議会事務局長	学識経験を 有する者
⑩	中野 直喜	高知県立盲学校長	学校関係者

令和5年度 第2回学校運営協議会

- 1 日時 令和6年3月13日(水) 14:00~15:00
- 2 場所 盲学校校長室
- 3 議事 (1) 令和5年度学校関係者評価について
 - ・学校評価アンケートの報告
 - ・令和5年度の実績の報告
 - ・学校関係者評価(2) 令和6年度学校経営計画について
 - ・令和6年度の実績の説明(3) その他

4 議事概要

(1) 令和5年度学校関係者評価について

学校長及び教頭が資料(学校評価アンケート、学校経営計画)に基づき、令和5年度の校内の取り組みや活動について説明、報告

「意見交換及び学校関係者評価」

〈金平委員〉

働き方改革に関して、教職員の持ち帰り業務の実情を皆が薄々、気づいていたと思う。今回学校評価アンケートで実際の声を聞き取り、文字化したことは大変意義深く(管理職を含めみんなが)取り組もうとしていることはとても大事だと感じた。特に教育の現場では細やかな指導を行うための教材づくりや点字指導が未経験の新転任者教職員にとっては点字を習得するだけでもとても大変なことはアンケートの結果からもよく分かった。

〈井上委員〉

保護者も学校行事を通じて、学校を盛り上げようと協力したいが、アンケート結果から学校行事に対する教職員の負担感やマイナスのイメージが読み取れるので、少し戸惑いはある。行事を通じて見せる子どもたちの笑顔や喜ぶ姿を見るのはとても嬉しい。

〈校長〉

運営委員会では、行事を通じて子どもが成長や変容することで教育の意義も高いことを訴え、実際にスポーツ大会への参加を通じて、大きな成長がみられた子どももおり、メンバーからも理解は得ている様子であった。単純に回数を増やすのではなく、行事の際の運営の仕方やいかに関係者を上手く巻き込むかなど工夫や改善する余地は十分にあると考えている。行事に対する負担感やマイナスイメージを唱える教職員が例え一人二人であっても少数の意見を無視しては、進められないと感じている。

〈上村委員〉

(行事を含め、学校を取り巻く諸課題を解決していくためには)今の教職員集団は、昔と比べてメンタル面を含め、様々な課題を抱えている方も少なくないと思うがいかがか?色々なことに取り組むにはチームワークはとても大切と考える。プライベートに配慮して可能であれば伺いたい。

〈校長〉

ご指摘の通り、課題を抱えている教職員は実際に在籍している。しかし、本校は他校に比べ、比較のお互いが相談や支え合える環境にあると考えている。特にコミュニケーションに苦手意識を持っている教職員も学校全体のチームで支えていきたい。また、教職員の負担感や人員不足も大きく関係しており、国や県が施策として育児、介護などワークライフバランスを踏まえた働き方を推進しているものの、実際の現場では、代替教職員が確保されず、困っている。現状でもマイナス人員で校務を運営している。もちろん本校だけではなく、他校の現状も同様と伺っている。病気や怪我で療養が必要な時でも我慢してしまう教職員も実際にはいるのではないかと心配に思うこともある。教職員の新規採用募集年齢も大幅に引き上げられたと発表があり、高知県の教員不足も深刻と感じている。

〈上村委員〉

このような難局であってもチームワークは常に必要と考えるので、苦しい状況であっても一層のコミュニケーション強化に取り組んでもらいたい。

〈伊藤委員〉

学校評価アンケートのうち、子どもたちの評価で視覚に配慮した授業ができていない項目が100%と回答している結果は高く評価できる。

〈上村委員〉

1年間の新型コロナウイルスの感染状況を伺いたい。また、感染症法上の5類移行後の活動制限は設けたかも併せて伺いたい。

〈校長〉

感染者は散見されたが、集団感染(クラスター)は発生していない。家族間感染や放課後デイサービスでの感染が疑われるケースがあった。感染症法上の5類移行後は原則として活動制限は設けず、国や県の動向を踏まえ、インフルエンザ相当として対応した。

〈高橋委員〉

学校間のオンライン授業の内容についてももう少し詳しくお伺いしたい。

〈内川委員〉

オンライン授業は今や全国的にどこでも行われているのか。

〈西岡委員〉

オンライン授業では生徒たちがどのように交流しているのか伺いたい。

〈上村委員〉

学校間オンライン授業などを実施した教育的な効果をどのように感じているか伺いたい。

〈校長〉

小学部では国語や道徳の授業、高等部では進路学習などがある。どの学校もクラスに一人しか在籍していないケースも多く、相手の意見を聞いたり、自分の考えを発表する貴重な機会となっている。コロナ禍でリモート会議が増え、ICT機器を活用した交流や共同学習ができることに教育界も気づき現在に至っている。また、授業ごとに子どもたちもテーマに沿って役割を果たすなど、教員から一方的な配信ではなく、子どもたちから他校の子どもたちに発信する場面も多く設けられ、交流につながっている。冒頭にも述べたが、学校間オンライン授業がコロナ禍を通じて定着したことで、集団の保障が最も大きな効果と感じている。

〈伊藤委員〉

オンライン授業では視覚障害教育に必要な触察に関する項目が体験できないと思われるがいかがか？

〈校長〉

オンライン授業では事前の打ち合わせや準備が大切で、例えば交流する学校同士が予め準備可能な同じ教材を用意しておき、同時にそれぞれが教材を触察した後、感想を発表したり、森林組合とオンライン授業を行った際には、事前にスギやヒノキのミニチュアな切株を盲学校に送ってもらい、実際に触察しながら樹木の特徴を説明、解説してもらうなど工夫した。

〈原田委員〉

地域の防災を担当しているが、災害時にはお互いをよく理解していないといざというときに

は困ると思う。例えば、避難訓練などは学校と地域とが共同で実施するような機会があってもいいと考える。

〈伊藤委員〉

隣の城西中学校で地域の交流を行った際に盲学校も参加していると記憶している。

〈内川委員〉

今年も城西防災フェアに盲学校も参加していた。ここ数年、毎年、盲学校は参加している。

〈校長〉

災害時に備え、地域との連携は常に重要と考えている。福祉避難所として指定されていることから視覚障害者だけの避難所ではなく、他の障害を有する要支援者も受け入れていくためには地域の実情をもっと知っておく必要があると常々考えている。地域の方も盲学校のどのように声掛けを行ってよいか迷っているとの声もある。

〈原田委員〉

要支援者が地域におられるのはわかっているが、個人情報保護の壁は高く、具体的な事情は把握できていない。

〈内川委員〉

(福祉避難所)マニュアルは完成しているか伺いたい。

〈校長〉

マニュアルは完成している。また、防災担当教員が高知市の防災担当者と協力して地域を巻き込んだ取り組みも次年度に向けて行うと報告を受けている。福祉避難所運営も地域の方が中心になるものの具体的にどのような方が関わるか情報も極めて少ないのが現状である。

〈原田委員〉

避難所運営マニュアルは、開設までのものが多い。実際には避難所を運営するという視点で書かれているものは少なく、例えば備蓄品に段ボールベッドなど生活に必要なものがないなど課題も多い。

〈伊藤委員〉

福祉避難所が開設されても児童生徒が在籍している場合は、施設の利用は優先されるのか伺いたい。

〈校長〉

もちろん児童生徒が在籍している場合、児童生徒の安全を確保するために必要な教室や人員などは確保したうえで、人員などに余力があれば福祉避難所運営を支援する立場である。

〈金平委員〉

要支援者に関する情報は自治体が作成する個別の避難計画がもとになっているが、進捗状況は芳しくないと聞く。また、福祉避難所開設に要する時間も能登半島地震を例に挙げるならば発災から1か月から2か月ほど要したとも聞く。

〈校長〉

次年度は体育館に空調が整備される予定なので、地域の方も巻き込んだ防災キャンプな

ども計画中である。

〈伊藤委員〉

かつて勤務していた学校でも大雨災害時に急遽、地域住民を受け入れたこともある。南海トラフ地震のような未曾有の災害時には、どのような形で盲学校に避難者が押し寄せるか想像もつかないので十分に備える必要がある。

〈西岡委員〉

オーテピア声と点字の図書館も南海トラフ地震に対する防災計画が課題となっている。本日は様々のご意見を伺って大変参考になった。今後に生かしていきたい。

〈高田委員〉

(子どもが通う)はりまや橋小学校で行われた高学年を対象とした公開授業(PTA 主催)でも視覚障害や盲導犬をテーマにした講演会を企画し、(日頃から視覚障害者へのサポートを主な業務としている)西岡委員や金平委員とも相談し、盲学校の山内先生に講師を務めていただいた。(様々な機会での地域の)保護者や子どもたちに視覚障害者への理解啓発を図ることはとても大切だと改めて感じた。自分自身も大変、勉強になった。

〈伊藤委員〉

年度末評価について委員の意見を伺いたい。

〈金平委員〉

ICT を活用した授業実践、交流・共同学習など積極的に取り組んでおり、上位の評価も考えられるが、学校が進んで課題を見つけ改善しようとしていることから B 評価でよいと思う。また、防災に関する取り組みは担当教員の熱意により積極的に取り組み、地域を巻き込んだ活動につながっているのは高く評価できる。働き方改革については、外部委員が盲学校に常勤していないことから評価が難しいので B 評価とさせていただきます。

よって、専門性の向上は「B」、キャリア教育の充実は「A」、盲学校の魅力発信は「A」、働き方改革は「B」としてはいかがか。

〈伊藤委員〉

金平委員のご提案について異議はあるか？

〈全委員〉

異議なし。

〈校長〉

令和 5 年度の取り組みについてご評価いただき、ありがとうございました。

(2) 令和6年度学校経営計画について

学校長よりグランドビジョン資料をもとに令和6年度の取組について説明

※教育大綱の改訂、第 4 期高知県教育振興基本計画の内容を踏まえ、中期目標(3 年間)を見据え、生きる力の涵養、在籍者数 2 桁の確保を目指し、毎年度取り組んでいきたい。令和 6 年度は特に学習意欲を引き出す授業の実施、視覚障害による学習面、生活面における困難さの克服、豊かな心、自律心、道徳心の育成、文化芸術スポーツ、防災教育の充実、魅力発信などをキーワードに取り組んでいきたい。

「意見交換」

特になし。(全委員承認)

(3)その他

- ・令和 6 年度本校卒業生の進路状況及び報道記事の紹介
- ・令和 6 年度学校運営協議会の開催予定及び委員改選時期を継続して検討する。
→改選時期は会計年度に合わせる形で調整していく。